

日本写真印刷株式会社
「2017年3月期第2四半期決算説明会」
質疑応答の概要
(2016年11月7日開催)

Q1. 第2四半期(3カ月)の設備投資・減価償却費・研究開発費は?

A1. 下表のとおり。

	第2四半期(3カ月)実績
設備投資額	約14.5億円
減価償却費	約19億円
研究開発費	約5.5億円

Q2. 下期からの組織変更について説明があったが(プレゼンテーション資料6ページ)、DDS(マイクロニードルパッチ)を全社部門に移管した背景を教えてください。

A2. 開発製品であるDDS(マイクロニードルパッチ)は、早期の市場投入を目指してライフィノベーション事業の担当としていたが、特に医療品用途においてはお客さまとのやり取りにおいて、上市に向けた取り組みに当初の想定よりも時間を要することが分かってきた。こうした背景から中長期の製品開発を担うコーポレートR&D部門に集約することとした。

Q3. Graphic Controlsグループ(9月に買収した医療機器メーカー)およびSchusterグループ(10月に買収した自動車内装向け成形・加飾フィルムメーカー)は、今後どの程度の業績寄与を見込んでいるか?

A3. 売上高については、今期はGraphic Controlsグループは4カ月分、Schusterグループは2カ月分の貢献であり、いずれも来期から通年で業績に寄与する。営業利益については、両社とも、のれん償却の影響を織り込んでも来期以降プラスの影響があるものと想定している。今後は、当社グループとのシナジーによって、業績を向上させることを目指す。

Q4. IT分野における設備投資とIT以外の分野におけるM&Aを並行して進めているが、これらを通じて、どのような事業ポートフォリオを構築しようとしているのか?

A4. 当社ではバランス経営の観点から、IT分野における事業機会を取り込む一方で、IT分野以外の事業規模を拡大することを目指してきた。昨年のAR Metallizingに引き続き、Graphic Controlsグループ、Schusterグループの買収を完了したことにより、IT以外の分野では蒸着紙、医療機器、自動車の3分野が今後の事業展開の主軸となる見通し。

以上